# 力州生乳质重急報



T(	n	P	G

令和4年度加工原料乳生産者補給金等に係る交付対象数量について・・・・・・1
<b>酪農情勢報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2</b>
令和4年度生乳取引交渉 (継続) について ・・・・・・・・・・・・・・・ 3
中期事業計画及び令和4年度事業計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
生乳需給安定化対策について ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
国産チーズ生産奨励事業について ・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
令和4年度乳用牛繁殖改善事業の実施について・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
令和3年度会員別生乳受託販売数量 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
令和3年度月別受託生乳検査成績/人事異動 · · · · · · · · · · · · · · · · · · 16
令和3年度販売状況について ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告について18
乳牛の暑熱対策を始めましょう! ・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

## 令和4年度加工原料乳生産者補給金等に係る交付対象数量について

農林水産省は4月1日、畜産経営の安定に関する法律に基づき、本会を含む63事業者への令和4年度加工原料乳生産者補給金等の交付対象数量を公表しました。

交付対象となる事業者は、本会のように生乳を集めて乳業に販売する事業者(第1号対象事業者)、乳業に直接生乳を販売する酪農家(第2号対象事業者)、乳製品を加工販売する酪農家(第3号対象事業者)に区別され、各事業者の年間販売計画に基づき、合計3,450,000.0トンが配分されました。また、第1号対象事業者のうち、あまねく集送乳を行い集送乳調整金の交付対象となる指定事業者は、本会を含む10の指定生乳生産者団体です。

#### 令和4年度加工原料乳生産者補給金等の交付対象数量

(単位:トン)

事業者名	交付対象数量
ホクレン農業協同組合連合会	3,112,174.0
サツラク農業協同組合	5,796.0
カネカ食品株式会社	977.6
富士乳業株式会社	6,027.8
株式会社MMJ	1,543.9
東北生乳販売農業協同組合連合会	72,874.4
関東生乳販売農業協同組合連合会	114,824.7
北陸酪農業協同組合連合会	3,500.4
東海酪農業協同組合連合会	14,191.2
近畿生乳販売農業協同組合連合会	650.2
中国生乳販売農業協同組合連合会	13,679.5
四国生乳販売農業協同組合連合会	3,424.0
九州生乳販売農業協同組合連合会	95,459.5
沖縄県酪農農業協同組合	65.7
第1号対象事業者計(14事業者)	3,445,188.9
第2号対象事業者計(21事業者)	3,113.6
第3号対象事業者計(30事業者)	1,697.5
合 計 (63事業者)	3,450,000.0

<sup>\*</sup>事業者名太字は指定事業者

<sup>\*</sup>合計63事業者には、第2号と第3号対象事業者の重複を除く

## 酪農情勢報告

#### 1. 九州の生乳出荷戸数

令和4年3月の生乳出荷戸数は1,186戸で、令和3年 3月時点の1,227戸と比較すると41戸減少しています。

#### 2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

23カ月令以下の頭数は前年を上回って推移した 一方、24カ月令以上の頭数は前年を下回って推移し、 総頭数も前年を下回った推移となりました(表1)。

表 1 乳用種雌牛飼養頭数

(単位:頭)

_				
		1月	2月	3月
00   0 0		29,208	29,568	29,404
23カ月令以下	増減	433	706	575
27.1	前年比	101.5%	102.4%	102.0%
04+00		74,929	74,612	74,647
24カ月令 以上	増減	-1,119	-1,456	-1,329
- XI	前年比	98.5%	98.1%	98.3%
		104,137	104,180	104,051
総頭数	増減	-686	-750	-754
	前年比	99.3%	99.3%	99.3%

注:Jミルクホームページより

出生総頭数は、12月と2月は前年を下回った一方、1月は前年を上回り、期間中の合計では前年を上回りました。その内訳として、乳用種雌は前年を上回り、交雑種はほぼ前年並み、乳用種雄は前年を下回りました(表2)。

表2 出生頭数

(単位:頭)

<u> </u>					( <del>-</del>     <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>     <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>     <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>     <del>-</del>   <del>-</del>     <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>   <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>     <del>-</del>       <del>-</del>       <del>-</del>       <del>-</del>       <del>-</del>         <del>-</del>         <del>-</del>         <del>-</del>         <del>-</del>
		12月	1月	2月	合計
		4,590	5,097	3,637	13,324
総頭数	増減	-130	496	-153	213
	前年比	97.2%	110.8%	96.0%	101.6%
うち、		1,278	1,323	961	3,562
乳用種	増減	-14	76	4	66
此推	前年比	98.9%	106.1%	100.4%	101.9%
うち、		616	660	490	1,766
乳用種	増減	-71	34	-69	-106
雄	前年比	89.7%	105.4%	87.7%	94.3%
- 4		2,170	2,551	1,721	6,442
うち、 交雑種	増減	-83	286	-218	-15
工作工工	前年比	96.3%	112.6%	88.8%	99.8%

注:Jミルクホームページより

#### 3. 生乳需給

#### (1)生乳受託販売数量

九州の生乳受託販売数量は、12、1月は前年を上回りましたが、2、3月は前年を下回りました。

また、都府県は九州と同様の動きとなり、北海道は前年を上回って推移しました。これらの結果、全国では前年を上回った推移となりました(表3)。

表3 生乳受託販売数量

(単位: t、%)

_					
		12月	1月	2月	3月
九州		50,366	51,382	47,607	54,243
九州	前年比	100.8%	100.5%	98.7%	98.5%
都府県		259,496	262,918	242,745	276,038
1 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	前年比	101.4%	101.3%	99.9%	99.7%
北海道		348,896	352,442	320,916	358,521
11/#2	前年比	104.5%	103.8%	103.5%	103.6%
全 国		608,392	615,360	563,662	634,559
全 国	前年比	103.1%	102.7%	101.9%	101.9%

注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

注:公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

#### (2)生乳販売状況

新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の 感染拡大に伴う第6波の影響もあり、全国的には飲 用向けが低調に推移し、脱脂粉乳・バター等向けが 大幅に増加する等、生乳需給は緩和傾向で推移しま した。九州においては、域内乳業者と飲用化促進に 向けて取り組み、さらに3月下旬で全国的にまん延 防止等重点措置が解除されて以降は業務用需要の回 復もあり、脱脂粉乳・バター等向けの増加は小幅に とどまりました(表4)。

また、前号で年末年始期間中の処理不可能乳発生 回避を報告しましたが、春休み期を含む3、4月についても、生産者の生乳出荷抑制、乳業者の最大限の 処理および全国的な消費拡大の取り組み等により、 処理不可能乳の発生は回避されました。今号を作成 している4月下旬において、GW明けまでは予断を 許さない状況が続く見通しですが、処理不可能乳を 発生させないよう最後まで取り組みます。

(3ページへ続く)

表4 用途別販売数量

(単位: t、%)

		00 00			
	用途	12月	1月	2月	3月
	飲用	32,133	34,954	33,899	34,543
	(前年比)	99.9%	100.7%	98.4%	98.7%
	(前々年比)	102.6%	102.3%	98.7%	107.6%
	はつ酵乳	6,582	6,528	6,289	6,950
	(前年比)	96.5%	96.0%	97.4%	98.7%
	(前々年比)	100.3%	99.1%	96.3%	99.4%
	脱脂粉乳・バター等	8,947	7,559	5,448	10,084
九州	(前年比)	108.1%	103.0%	103.3%	96.4%
	(前々年比)	105.1%	98.2%	90.5%	81.2%
	生クリーム	2,618	2,247	1,878	2,570
	(前年比)	101.4%	102.7%	97.1%	102.6%
	(前々年比)	93.3%	96.6%	87.2%	103.6%
	チーズ	86	94	94	95
	(前年比)	91.4%	99.9%	100.4%	113.3%
	(前々年比)	89.5%	99.2%	98.7%	107.1%
	飲用	247,963	261,929	243,605	254,562
	(前年比)	96.7%	97.8%	98.6%	97.7%
	(前々年比)	98.3%	98.9%	96.6%	105.9%
	はつ酵乳	35,283	36,827	33,734	38,390
	(前年比)	97.8%	99.5%	96.5%	97.4%
	(前々年比)	98.7%	99.3%	93.8%	94.6%
	脱脂粉乳・バター等	174,316	173,914	156,899	190,111
全国	(前年比)	113.5%	107.6%	110.3%	111.0%
	(前々年比)	119.0%	112.8%	108.2%	102.7%
	生クリーム	112,147	106,118	95,976	111,835
	(前年比)	103.7%	108.7%	101.5%	98.6%
	(前々年比)	98.5%	101.2%	94.3%	103.0%
	チーズ	38,683	36,571	33,447	39,661
	(前年比)	108.9%	104.2%	97.6%	103.8%
	(前々年比)	113.5%	107.1%	105.5%	101.0%

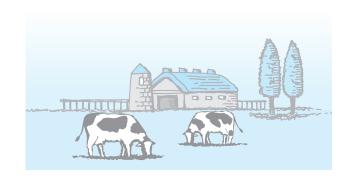
注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

#### 4. 今後の生乳需給について

直近の酪農を取り巻く環境は、新型コロナウイルスの影響を受けて生乳需給が緩和し、脱脂粉乳在庫が過去最高水準に達する見込みです。一方、ウクライナ情勢の悪化を含む国際情勢の不透明感から生産資材価格は高騰を続け、酪農経営を圧迫しています。

(一社)中央酪農会議が制定した令和4年度生乳需給安定化対策には、酪農経営と生乳需給を改善していくため、九州を含む都府県では低能力牛の早期淘汰・更新に取り組むことや、国の支援を受けて生・処で実施する脱脂粉乳在庫削減対策に参加することが盛り込まれました。

本会としては、これらの事業に加え、域内乳業者との飲用化促進への取り組み強化や酪農理解醸成・ 牛乳消費拡大への取り組み等を積極的に進め、少しでも九州産生乳の有利販売に繋げられるよう今後も 取り組んでまいります。



## 令和4年度生乳取引交渉(継続)について

令和4年3月8日開催の「生乳受託販売委員会」及び「理事会」へ報告しております通り、現時点(3月8日)では、 まだ合意に至っておりません。

その後本会からは、酪農生産現場を取り巻く環境(配合飼料・粗飼料・生産資材の高騰・副産物価格と乳価の下落等)は、過去に例を見ない厳しい状況で進んでおり、それに伴う生産意欲の減退と経営継続の不安から、例年以上の経営継続断念の方々の発生と生産資源損失を不安視していることを乳業者へ訴えました。

乳業者からは、令和4年4月から取り組まれる「乳製品在庫削減対策」や「酪農経営改善・需給均衡対策事業」をしっかり進めて頂き、需給改善がはっきり示されることが先決と言われております。

今後は乳製品の需給動向も、コロナ禍やウクライナ侵攻等によりどう動くのか?油断できない状況にあります。 九州におきましても、さらなる九州産生乳の販売努力と生産者の方々の窮状打開のためにも今後も継続して 生乳取引交渉を続けてまいります。

## 中期事業計画及び令和4年度事業計画について

去る令和4年3月29日開催の臨時総会において決定された 中期事業計画及び令和4年度事業計画の概要をお知らせします。

## く中期基本方針>

#### 1. 生乳需給安定・有利販売に向けた生乳生産方 針の検討・取り組みの実施

九州全体で生乳需給安定・有利販売に向けた 生乳生産方針を検討し、会員と連携してその実 現に向けて取り組みます。

### 2. 「中長期的視点に立った今後の九州生乳販連 の方向性について」に基づく生乳受託販売体 制の整備

令和3年度で策定した「中長期的視点に立った 今後の九州生乳販連の方向性について」に基づき、 生産者から指定団体に至るまでの全ての生乳受 託販売契約者による適切な受託販売事業が実施 できる体制を整備します。

#### 3. 業務推進計画に基づく生乳流通体制合理化の推進

令和3年度で策定した業務推進計画に基づく生 乳流通体制の合理化を推進します。

## 4. 生乳代金の請求・精算に係るインボイス制度への対応

令和5年10月から開始されるインボイス制度 に対応した乳代請求・乳代精算方法を整備します。

#### 5. 非常時における集送乳事業継続体制の構築

停電・伝染病・災害等発生時の対応計画の作成と継続的な見直しを行い、非常時における集送乳事業継続体制を構築します。

## 6. 九州産生乳の安定的な需要確保に向けた酪農 理解醸成・消費拡大対策事業の実施

生活者の価値観が多様化する中、九州の酪農・ 九州産生乳の継続的な支持獲得・定着に向けた 取り組みを実施するとともに九州産牛乳・乳製 品の幅広い需要拡大に向け、九州全体での取り 組みを企画・実施します。

#### 7. 生乳検査体制の充実

平成30年6月の食品衛生法等の一部改正により「集乳業」である会員CSごとに、HACCPに沿った衛生管理計画に基づいた業務が遂行できるよう、各会員と連携し検査体制の充実に努めます。

#### 8. 生乳の安全・安心の確保

生乳生産の安全・安心の確保のため、ポジティブリスト制度に対応した生乳生産体制を構築し、 生乳の事故を防止することにより九州産生乳の 信頼確保に努めます。

#### 9. 新しい検査データの活用

乳用牛群検定全国協議会協力のもと牛群検定 サンプル中の新しい検査項目FAO (脂肪酸組成) の測定試験を実施し、(一社) 家畜改良事業団に よるデータ解析が終了後に会員へデータを提供 できるよう準備を進めます。

#### 10. 効率的な業務運営

業務運営・業務内容の充実と効率化に努めます。また法律等の改正に伴い諸規程等の改定を 行います。

#### 11. 職員としてのモラル・資質の向上

会員・酪農家等の負託に応えられるよう職員 の倫理観や能力の向上に努めます。

#### 12. 消費税におけるインボイス制度への対応

事業者登録や経理事務の整理に取り組みインボイス制度に対応します。また、会員への情報の提供や共有に努めます。

#### 13. 事業継続計画の見直し

非常時に円滑に対応するため実態に沿った計 画となるよう定期的・継続的に見直しを行います。

## 中期用途別販売計画

(単位:トン、%)

	区分		令和3年度 2021年度			令和5年度 2023年度			令和6年度 2024年度			
			乳量	乳量	前年比	構成比	乳量	前年比	構成比	乳量	前年比	構成比
	飲用向け		424,600	414,400	97.6	69.3	415,370	100.2	69.3	415,000	99.9	69.3
用途	はつ酵乳	等向け	84,515	87,000	102.9	14.5	87,220	100.3	14.5	87,160	99.9	14.6
別	脱脂粉乳・	バター向け	66,328	66,600	100.4	11.1	66,830	100.3	11.1	66,780	99.9	11.1
内	生クリー	ム等向け	28,420	28,860	101.5	4.8	28,940	100.3	4.8	28,920	99.9	4.8
	チーズ向	け	1,137	1,140	100.3	0.2	1,140	100.0	0.2	1,140	100.0	0.2
	合	計	605,000	598,000	98.8	100.0	599,500	100.3	100.0	599,000	99.9	100.0

## 中期事業損益計画

(単位:千円、%)

科目	令和3年度 実績見込	令和4年 2022年 計画		令和5年 2023年 計画		令和6年 2024年 計画	
	金額	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
販売事業収益	1,233,248	1,285,826	104.3	1,281,720	99.7	1,280,759	99.9
販売事業費用	1,116,230	1,342,027	120.2	1,142,534	85.1	1,141,725	99.9
販売事業利益	117,018	-56,201	-48.0	139,186	-247.7	139,034	99.9
消費拡大事業収入	25,742	16,300	63.3	16,300	100.0	16,300	100.0
消費拡大事業費用	25,742	15,300	59.4	15,300	100.0	15,300	100.0
消費拡大事業利益	0	1,000	_	1,000	100.0	1,000	100.0
検査事業収益	125,478	123,960	98.8	124,127	100.1	124,118	100.0
検査事業費用	26,746	29,892	111.8	29,875	99.9	29,926	100.2
検査事業利益	98,732	94,068	95.3	94,252	100.2	94,192	99.9
補助事業収益	16,141	16,429	101.8	16,310	99.3	16,310	100.0
補助事業費用	16,141	16,429	101.8	16,310	99.3	16,310	100.0
補助事業利益	0	0	_	0	_	0	_
事業総利益	215,750	38,867	18.0	234,438	603.2	234,226	99.9
人件費	111,949	124,272	111.0	121,262	97.6	123,823	102.1
旅費交通費	3,656	16,092	440.2	14,092	87.6	14,092	100.0
業務費	8,741	13,967	159.8	14,575	104.4	14,575	100.0
諸税負担金	9,490	9,590	101.1	9,591	100.0	9,591	100.0
施設費	42,804	35,139	82.1	35,179	100.1	32,599	92.7
その他管理費	2,080	2,517	121.0	2,517	100.0	2,517	100.0
一般管理費計	178,720	201,577	112.8	197,216	97.8	197,197	100.0
事業利益	37,030	-162,710	-439.4	37,222	-22.9	37,029	99.5
事業外収益	7,442	6,193	83.2	6,229	100.6	5,329	85.6
事業外費用	3,325	3,900	117.3	3,900	100.0	3,900	100.0
事業外損益	4,117	2,293	55.7	2,329	101.6	1,429	61.4
経常利益	41,147	-160,417	-389.9	39,551	-24.7	38,458	97.2
特別利益	0	0	_	0	_	0	_
特別損失	0	0	_	0	_	0	_
税引前当期利益	41,147	-160,417	-389.9	39,551	-24.7	38,458	97.2
法人税・住民税及び事業税	12,344	12,000	97.2	11,865	98.9	11,537	97.2
経営健全化積立金取崩	0	200,000		0	0.0	0	_
当期未処分利益	28,803	27,583	95.8	27,686	100.4	26,921	97.2

<sup>※「</sup>収益認識に関する会計基準」適用に伴い、販売事業収支項目が変更になっています。

## 令和4年度事業計画

#### 1. 販売部門

- (1) 生乳需給安定・有利販売に向けた生乳生産 方針の検討・取り組みの実施
- ① 変動する生乳需給の中でも生産者が安心して 生乳生産に取り組める環境の整備に向け、全 国の生乳需給安定化対策に基づき九州の生乳 需給安定化対策を策定します。
- ② 令和4年度生乳需給安定化対策実施要領に基づき、本会が各会員を通じてとりまとめる生乳委託計画の数量を出荷目標数量とし、6・9・1月を目途に生乳出荷見込数量の集約を行います。
- ③ 需要期生産の推進に向けて九州全体での取り 組みを検討するとともに、次年度の生乳増産 奨励事業・季節別乳価調整率について検討を 進めます。
- ④ (一社) Jミルクが実施する酪農乳業産業基盤 強化特別対策事業に会員と連携して取り組み ます。
- (2)「中長期的視点に立った今後の九州生乳販連 の方向性について」に基づく生乳受託販売 体制の整備
- ① 生産者からの生乳委託に係る申し出に対し、 本会・会員等が統一した対応が取れるように 農水省・中央酪農会議・他ブロック等と確認

- を取りながら、ルール等の検討・規程等の整備を進めます。
- ② 現行の生乳受託販売機能の維持を基本とした うえで、本会と会員等の業務分担の明確化と 手数料における双方の関連を整理し、必要な 対応を行います。

#### (3) 業務推進計画に基づく生乳流通体制合理化 の推進

- ① 業務推進計画に基づく生乳流通体制合理化の 進捗・今後の課題等について各会員と定期的 に打合せを行い、計画に沿った合理化が進め られるよう取り組みます。
- ② CSの統廃合を含む集送乳経費の削減に向け合理的な集送乳路線の検討を行うとともに、その実現に向け関係先と協議します。
- ③ 受託乳量の確定作業について各会員と確認を 進め、九州統一の方法を検討します。

## (4) 生乳代金の請求・精算に係るインボイス制度への対応

- ① 消費税適格請求書保存方式 (インボイス制度) に対応した乳代請求・乳代精算方法を整備し ます。
- ② ①に基づき各会員・取引先乳業者と必要な対応・調整を行います。

#### (5) 非常時における集送乳事業継続体制の構築

① 新型コロナウイルス感染者・濃厚接触者が発生した場合でも集送乳が継続できるよう会員・ 乳業者・運送会社と連携し、発生時対応マニュ

#### 表1 本会の販売経費

区分	項目		経費の額			令和4年度計画	
	販売手数料		生乳受託則	反売代金の0.3%			0.333円/kg
			総額	実費		総額	3.943円/kg
生乳受託		送乳経費 需要者負担 需要者負担		需要者負担額		需要者負担	0.050円/kg
販売に伴い必要と	集送乳 経費		生産者負担	実費-需要者負担額		生産者負担	3.893円/kg
なる経費	11000	集乳経費	実費				2.310円/kg
		CS冷却費	実費				1.068円/kg
	植	<b>查</b> 経費	生乳受託販売数量1kgあたり0.12円				0.120円/kg

アルの整備を進めます。

② 令和2年度に作成した停電時の対応計画を見 直すため、会員・乳業者・輸送会社を対象に 調査を行います。

#### (6) 九州産生乳の安定的な需要確保に向けた酪 農理解醸成・消費拡大対策事業の実施

- ① 九州の酪農・九州産生乳に対する継続的な支持獲得・定着を図るための取り組みを各会員等と協議検討し、実施します。
- ② 九州産牛乳・乳製品の需要拡大に向けた九州 全体での取り組みの実現に向け各会員と協議 します。

#### (7) 乳代精算

- ① 生乳受託販売に係る経費の控除、乳代の算定・ 乳代精算の業務については「生乳の受託販売・ 乳代精算及び生乳受託販売事業実施に伴う集 送乳経費等の控除に係る要領」に基づき実施 します。
- ② 本会の販売経費は表1のとおりとします。

#### (8)季節別乳価調整率

需要期における生産対策を図るため、本年度 は別に定める季節別乳価実施要領に基づき、 以下の乳価調整率を実施します。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
調整率	94	94	100	110	111	114	105	100	93	92	92	92

#### (9) 加工原料乳生產者補給金等

令和4年度の加工原料乳生産者補給金は加工原料乳(脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向け) 認定数量1kg当たり8円26銭、集送乳調整金2円59銭であり、支払いは四半期ごとに行います(但し、第2四半期は精算払い時に実施)。

#### (10) 補助事業

- ① 加工原料乳生產者経営安定対策事業
- ② 生乳流通体制合理化推進事業
- ③ 生乳需要基盤確保事業
- ④ 国産チーズ生産奨励事業

#### 2. 検査部門

### (1)配分検査・配分再検査・牛群検定検査・取 引検査・指導検査・PAGs検査の実施

- ① 乳質向上対策実施要領に従い個人配分検査を 実施します。
- ② 乳用牛群検定普及定着化事業に伴う会員から 依頼された牛群検定検査を実施します。 また、乳用牛群検定全国協議会協力の下、新 しい検査項目FAO(脂肪酸組成)の測定試 験を実施し、(一社)家畜改良事業団による データ解析が終了後、会員へのデータ提供が できるよう会員関係者と連携して準備を進め ます。
- ③ 生乳取引に係るローリー乳の検査を実施します。
- ④ 高品質生乳生産のため会員から依頼された指導検査を実施します。
- ⑤ 生乳生産基盤強化のためPAGs検査を実施します。

#### (2) 生乳検査精度維持

- ① 検査の精度管理については生乳検査認証マニュアルに基づき実施いたします。
- ② 九州域内 CS・乳業者の生乳検査施設とのクロスチェックを実施します。

#### (3) 生乳の安全・安心確保

- ① 飼養衛生管理基準となる生乳生産管理マニュアルの令和3年改訂第3版に従って、良質な生乳生産と安全・安心の確保のため、会員の協力のもと飼養衛生管理の指導を務めます。
- ② 生乳出荷伝票への記録を乳質事故の未然・再 発防止に活かし、廃棄乳削減のための啓発活 動を進めます。また、現場で薬剤や器具の誤っ た使用がされないよう各会員と連携し指導を 強化します。
- ③ 集乳業の対象となる会員CSがHACCPに沿った衛生管理計画に従い、CS施設内での生乳の取扱い・検査手法の適正化等を図れるよう各会員と連携しながら検査体制の充実に努めます。

#### (4) ローリー乗務員研修

ローリー乗務員の研修会を開催し、集乳技術 と知識の向上を図り適切な衛生管理と集乳作 業マニュアルの普及の啓蒙に努めます。

#### (5) 会員・乳業者の技術研修

会員と乳業者の担当者を対象に生乳検査技術 研修会を開催し、基礎知識の習得と技術の平 準化及びトラブル発生時の対応について研修 を行います。

#### (6) 生乳品質共励会の開催

令和3年度において生乳の品質が優秀であった 生産者を対象に生乳品質共励会の表彰式を催 します。生産者の乳質改善意欲向上のため令 和4年度生乳品質共励会を開催いたします。

#### (7) シャーレの供給

抗菌性物質検査用のシャーレの供給を継続し ます。

#### (8) 検査実施本数 (表2)

#### (9) 配分・取引に係る生乳検査料

生乳検査料は受託乳量に対し0.12円/kgとします。

#### 3. 総務部門

#### (1) 効率的な業務運営

目的積立金の財源を確保するため、資金運用 の効率化や債権管理の強化に努め財務の健全 化を図ります。

#### (2) コンプライアンス態勢の推進

法令・定款・規程等の遵守を基本にしたコンプライアンスの推進に取り組みます。また、役職員のコンプライアンスへの意識向上に向けた研修会などの取り組みを実施します。

#### (3) 職員の処遇と教育研修

職員の処遇については人事考課実施要領に基づき行います。また職員としての知識および資質の向上を図るため、計画的な職員教育、関係機関・団体や外部の研修会等に積極的に参加します。

#### (4) 酪農理解醸成活動の推進

新型コロナ禍に対応した感染予防対策を講じて「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」ことを目的とした酪農教育ファーム活動を教育機関と共に推進を図ることに努めます。

また、継続した活動を行うための支援に努め、

#### 表2 検査実施本数

検査種目	R3年度実績 (見込み)	R4年度計画	前年比
配分細菌検査	28,346本	27,439本	96.8%
配分成分検査	28,346本	27,439本	96.8%
配分再検査	1,221本	1,280本	104.8%
牛群検定検査	970,760本	960,380本	98.9%
取引検査	47,267本	47,300本	100.1%
指導検査	6,920本	7,000本	101.2%
依頼検査	20,809本	21,475本	103.2%
PAGs検査	4,821本	5,030本	104.3%
総検査本数	1,108,490本	1,097,343本	99.0%

Webの活用等による新たな方法による推進を 会員と連携し取り組みます。

#### (5) 消費税制度への対応

インボイスに対応するために事業者登録や経 理事務の整理と合理化に努めます。また会員 への情報の提供と共有に努めます。

#### (6) 事業継続計画の見直し

実態に沿った計画となるように定期的・継続 的に見直しを行います。

#### (7) 情報の提供

定期的に発行している本会会報やホームペー ジを充実させて有益な情報の提供に努めます。

## 令和4年度用途別販売計画

(単位:トン)

	用途別内訳										
期別	飲用牛乳等向け	はつ酵乳等向け	脱脂粉乳・バター等向け	クリーム等向け	チーズ向け	合計					
第1四半期	110,400	22,390	18,260	7,365	285	158,700					
第2四半期	104,300	22,920	5,540	6,655	285	139,700					
第3四半期	103,100	21,200	13,230	7,785	285	145,600					
第4四半期	96,600	20,490	29,570 7,055		285	154,000					
合計	414,400 87,000		66,600	28,860	1,140	598,000					

## 令和4年度損益計算書 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:千円)

/光/L. T 四)

	科	目		金	額				
Į Į	販売事業リ	収益		1,285,826					
ļ ļ	阪売事業 <sup>3</sup>	費用		1,34	2,027				
	販売	事業利益		-5	6,201				
}	肖費拡大	事業収益		1	6,300				
)	肖費拡大	事業費用		1	5,300				
	消費拡	大事業利益		1,000					
t	食査事業リ	収益		12	3,960				
<b>1</b> 1	<b>食査事業</b>	費用		2	9,892				
	検査	事業利益		9	4,068				
i	補助事業」	収益		1	6,429				
	補助事業	費用		16,429					
	補助	事業利益	0						
	事業終	総利益		3	8,867				

<sup>※「</sup>収益認識に関する会計基準」適用に伴い、 販売事業収支項目が変更になっています。

				(単位:千円)			
	科	目	金	額			
	人件費		124,272				
	旅費交通	 費		16,092			
	業務費			13,967			
	諸税負担	<del></del> 金		9,590			
	施設費			35,139			
	その他管	理費		2,517			
	一般管3	理費計	2	01,577			
	事業	利益	-1	62,710			
	事業外収	 益		6,193			
	事業外費	用	3,900				
	事業外	損益		2,293			
	経常	利益	-1	60,417			
	特別利益			0			
	特別損失			0			
	税引前当	期利益	-1	60,417			
污	去人税·住民	税·事業税		12,000			
糸	Z営健全化 <sup>1</sup>	責立金取崩	2	00,000			
	当期未処	上分利益		27,583			

## **全乳需給安定化対策について**

#### 1. 令和3年度生乳出荷数量実績について

令和3年度生乳需給安定化対策において、設定した生乳出荷目標数量に対する会員別の出荷数量実績は次のとおりとなりました。

#### 表1 令和3年度生乳出荷数量実績

(単位: kg)

	令和2年度		令和3年度		
	実績 A	目標数量 B	実績 C	前年比 D = C/A	達成率 E=C/B
ふくおか県酪協	72,256,302	71,567,107	72,252,778	100.0%	101.0%
佐賀県農協	14,062,755	13,585,556	13,966,421	99.3%	102.8%
長崎県酪連	35,575,382	36,126,370	34,973,664	98.3%	96.8%
熊本県酪連	256,351,284	259,083,563	263,157,520	102.7%	101.6%
大分県酪協	69,639,388	72,532,096	70,580,166	101.4%	97.3%
宮崎県経済連	72,952,469	72,539,617	72,503,777	99.4%	100.0%
鹿児島県酪協	78,540,367	75,236,020	76,289,350	97.1%	101.4%
九州合計	599,377,947	600,670,329	603,723,676	100.7%	100.5%

## 2. 令和4年度生乳需給安定化対策について

#### (1) 基本的な考え方

新型コロナウイルスの影響による生乳需給の緩和傾向が継続するなか、令和4年度の全国の生乳生産量は前年を上回って推移する見通しであり、脱脂粉乳在庫は、生・処、国による在庫削減スキームを行ってもなお令和3年度末に比べて積み増すことが想定されるなど、生乳の需給環境はさらに悪化することが懸念されます。

また、需要期の逼迫及び不需要期の緩和度合いは例年以上に拡大する見通しである中、市場への安定供給と受託生乳の完全販売が求められる状況です。更に、飼料価格をはじめ、生産資材価格の高騰等が酪農経営を圧迫しており、需給改善や経営改善の取組を進めることも急務の課題となっています。

こうした状況の中、生乳生産者の計画的な生乳生産・経営安定のために、令和4年度は「3年間(令和3年度~令和5年度)は、前年実績以上を目標数量として設定する」中期対策(第4期・2年目)に取り組みます。

#### (2) 生乳出荷目標数量

本会は、畜産経営の安定に関する法律に基づき作成する令和4年度年間販売計画の数量(公共の数量等を含む)を、令和4年度の生乳出荷目標数量とします。また、令和4年度年間販売計画の作成にあたり、各会員が生産者からの積み上げにより作成し本会へ提出した令和4年度生乳委託計画の数量を、各会員の令和4年度の生乳出荷目標数量とします。なお、期中において、進捗状況を踏まえた見込み数量の把握を行うために、6月、9月、1月の計3回見直しを実施いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

表2 令和4年度生乳出荷目標数量

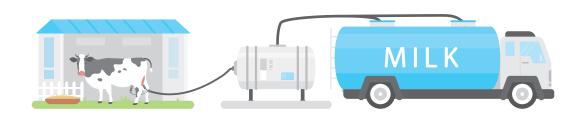
(単位: kg)

	目標数量	前年比
ふくおか県酪協	71,949,682	99.6%
佐賀県農協	13,955,746	99.9%
長崎県酪連	35,601,510	101.8%
熊本県酪連	269,015,985	102.2%
大分県酪協	70,203,637	99.5%
宮崎県経済連	76,019,258	104.8%
鹿児島県酪協	70,333,591	92.2%
九州合計	607,079,409	100.6%

#### (3) 需給変動への対応

- ① 脱脂粉乳在庫量を削減する「在庫対策スキームへの拠出」
  - ・生産者:乳業者=1:1の拠出に加え、国からの支援(28.3億円)
- ② 生乳の完全販売を実現するための「都府県における加工リスク平準化緊急対策への拠出」
- ③「低能力牛の選別奨励等(早期更新・淘汰)の取り組み」
- ④ 「需要期生産の推進」

上記のうち③「低能力牛の選別奨励等(早期更新・淘汰)の取り組み」について、次ページでご紹介します。

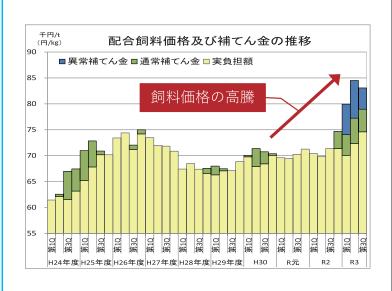


## 酪農経営改善・需給均衡対策事業について

令和4年度生乳需給安定化対策において、酪農経営と生乳需給・ 処理不可能乳の問題を併せて改善するために取り組む低能力牛等の 選別奨励事業についてご紹介します。

## 1. 事業実施の背景

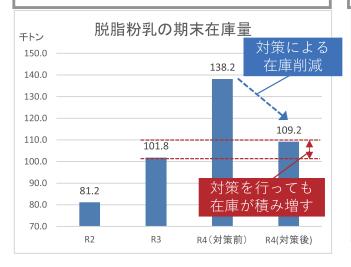
## (1)早期更新による経営改善



- ◆ 飼料や生産資材の高騰に より生乳生産コストが上昇
- ◆ 自らの酪農経営における 低能力牛を早期に更新し、 経営改善に繋げていくこと が重要
- ※低能力牛の例低乳量、低乳成分、繁殖 障害、悪癖・気性荒い、 など

## (2)積み増す乳製品在庫

◆ 脱脂粉乳は危機的水準まで積み 増し、対策を行っても減少しない 見通し



## (3)処理不可能乳発生の懸念

◆ 年度末~GWや年末年始の学乳 停止期に処理不可能乳が発生する おそれ



## 2. 事業の内容

## 低能力牛等の早期更新 ⇒ 1 頭当たり5万円以内を助成



※Jミルク事業の活用も含む

## 3. 事業の要件

- ◆ 選別(と畜)時点において30ヶ月齢以上~48ヶ月齢未満 の乳用雌牛※であること ※ただし未経産牛は除く
- ◆ 酪農経営を行う上で<u>通常に発生する更新・廃用</u>※について は自ら助成対象から除外すること
  - ※ 例えば疾病や周産期の事故等の通常の経営において発生するもの
- ◆ 選別(と畜)時点において<u>廃業していない</u>こと※ 選別(と畜)時点において当該牛以外の経産牛を飼養していること

### 4. 要件の確認方法

確認内容	整備する証拠書類
月齢の確認	牛の個体識別情報検索サービスにおける、牛の月齢確認システムの写し(webページの印刷など)等
と畜の確認	牛の個体識別情報検索サービスにおける、必要事項が記載されている牛個体識別情報の写し(webページの印刷など)等 又は と畜場が発行すると畜証明書の写し等
通常の更新・廃用を事業 対象から除外していること	実績報告書の同意欄へのチェック等による自己申告
選別時点で廃業していない こと	実績報告書の同意欄へのチェック等による自己申告

## 5. 事業の上限・実施期間

- ◆ 1戸当たりの助成は<u>10頭まで</u>
  - ※ 複数の生乳出荷先がある場合(自家処理含む)は上限頭数(10頭)に 令和4年度委託割合を乗じた頭数
- ◆ 事業実施期間は<u>令和4年3月~令和5年2月</u>(6~9月は除外)
  - ※ と畜場の都合等、やむを得ない理由により実施がずれ込んだ(5月⇒6月)場合は、と畜日を5月31日とみなし、その時点で要件を満たしていれば事業対象とすることができます

酪農家の皆さま、ご協力をよろしくお願いします!

## 国産チーズ生産奨励事業について

畜産業振興事業の1つである「国産乳製品等競争力強化対策事業」のうちの「国産チーズ生産奨励事業」について、令和3年度に引き続き令和4年度も本会が事業実施主体となって実施していくこととなりましたので、事業内容についてお知らせします。

#### 1. 概要

「総合的なTPP等関連政策大綱」に即し、国産チーズの競争力強化及び品質向上等を図るため、酪農家によるチーズ原料乳の高品質化を確保するための飼養管理の高度化や乳質管理に取組む費用の一部を支援します。

#### 2. 事業の実施期間

令和4年4月1日から令和5年3月31日

#### 3. 事業の要件等

#### (1) 事業対象者

事業対象者は、本会を通じて生乳の出荷・販売を行う生産者であって、次に掲げる基本となる取組のうち7項目以上に取り組んでいる生産者になります。

- ①乳房炎予防のための畜舎の環境改善
- ②飼養管理の高度化
- ③飼料分析の実施
- ④記帳・記録の実施
- ⑤搾乳機器の点検・整備
- ⑥チーズ向け生乳の品質向上
- ⑦抗生物質の迅速検査
- ⑧その他生乳の品質向上対策

#### (2) 乳質基準

この事業の対象となる生乳は、次の乳質基準をすべて満たした生乳になります。

項目	無脂乳 固形分率	乳脂肪率	細菌数	体細胞数
基準	8.3%	3.5%	10万/ml	30万/ml
	以上	以上	以下	以下

#### (3) 奨励金の単価

この事業の奨励金の単価は次のとおりです。

- ①基本となる取組を実施する場合:11円/kg
- ②次の上乗せとなる取組を実施する場合:
  - ①+2円/kg
  - ア. ホルスタイン種以外の乳用種飼養
  - イ. 有機畜産の認定
- ③チーズ向け生乳を増加させた場合\*:事業対象者毎の増加分に対し+20円/kg
  - ※本会の令和4年度チーズ向け取引数量が令和元年度~令和3年度の平均取引数量を上回った場合

#### (4) 乳質基準の適用方法

本会検査所が毎月2回行う配分検査結果の各項目の単純平均値が(2)の乳質基準を満たしているかを判定します。

#### (5) 交付対象数量

奨励金の交付対象は、当該月に事業対象者が生産した生乳のうち、前項により乳質基準を満たしている生乳受託販売数量を基礎として、これを12ヵ月分集積したものに、本会の令和4年度総取引数量(公共除く)のうちチーズ向け生乳の取引数量の比率を乗じた数量になります。

※各取組の詳細や今後のスケジュールについては所属 の農協にお問い合わせ下さい。



## 令和4年度乳用牛繁殖改善事業の実施について

#### I. 事業の概要について

#### 1. 内容

本事業は、PAGs検査を実施することで繁殖改善に取り組む生産者に助成を行う事業です。

#### 2. 対象者

本会検査所および会員検査施設にPAGs検査を依頼した生産者が対象です。

#### 3. 助成単価

一検体あたりの助成単価は下記の通りです。

単位:円(税抜)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
300	300	400	400	400	400	400	400	300	300	300	300

#### 4. 助成上限

令和4年度生乳委託計画に記載する委託生乳量に応じて、対象者毎に助成対象検体数の上限を設定します。 上限本数は次の数式に基づいて事務局にて確認します。

【数式】 年間委託生乳量÷365=n<sup>ト</sup>>

※nは小数点以下を四捨五入した整数。

※委託生乳量が365以下の場合はn=1。

上限本数=60×n本

#### 5. 助成の対象となる検査の期間

令和4年4月~令和5年3月検査実施分が助成対象です。



## Ⅱ. PAGs検査に関するご案内

#### 1. PAGs検査とは



PAGs検査とは、乳汁中のPAGを測定することで人工授精後28日目以降の牛の妊娠/空胎を確認する検査方法です。PAGは牛の胎盤から分泌される物質で、妊娠/空胎を確認する「ものさし」として有効な物質です。

直腸/エコー検査と比べた精度は妊娠時の一致率 (感度) 98.7%、空胎時の一致率 (特異度) 94.4%\*となっており、有用性の高い検査方法です。(※IDEXX Validation data report)

#### 2. PAGs検査のメリット



PAGs 検査を行う最大のメリットは、好きなタイミングで乳汁を採取するだけで、空胎 牛を見つけられることです。海外の報告では、空胎1日あたり約700円/頭の損失があるとされており、例えば空胎牛1頭が20日間存在した場合、約14,000円の損失が生じる計算\*になります。PAGs 検査で空胎牛を早く発見して次の受精につなげることができれば、この損失を減らせます。(※De Vries et al. 2005, 1ユーロ = 140円で計算)

## YouTube動画 (限定公開) のご紹介

#### 「乳汁による PAG 検査の特徴と活用事例」





アイデックス ラボラトリーズ(株)IDEXX PAG検査サービス 2020年検査結果レポート

乳用牛繁殖改善事業により、令和4年度も検査料の助成を実施いたします。 適用条件をご確認いただき、ぜひPAGs検査をご利用ください。

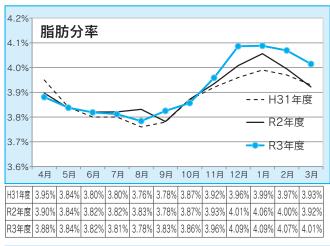
本会の基本検査料	4.5.12.1.2.3月	6.7.8.9.10.11月
800円	500円 (300円助成後)	400円 (400円助成後)

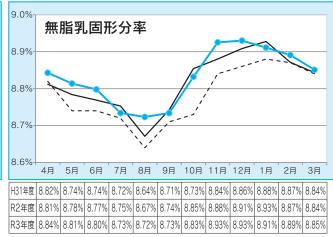
#### 令和3年度会員別生乳受託販売数量

(単位: t、%)

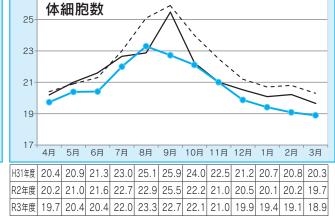
	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県	熊本県酪連		大分県酪協		圣済連	鹿児島県酪協		合	計
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実績	前年比	実 績	前年比
4-12月 計	54,083	100.4	10,432	99.3	26,029	98.6	196,095	103.2	52,654	102.5	53,941	99.5	56,191	97.6	449,426	101.3
1月	6,142	100.7	1,175	99.2	3,035	100.2	22,443	102.3	6,032	99.2	6,236	99.9	6,684	96.4	51,747	100.5
2月	5,645	98.2	1,107	100.1	2,762	95.5	20,818	100.4	5,572	98.4	5,765	98.7	6,265	95.2	47,934	98.7
3月	6,382	97.4	1,252	98.9	3,147	96.6	23,801	100.3	6,323	97.1	6,562	98.5	7,149	95.6	54,617	98.5
合計	72,253	100.0	13,966	99.3	34,974	98.3	263,158	102.7	70,580	101.4	72,504	99.4	76,289	97.1	603,724	100.7

#### 令和3年度 月別受託生乳検査成績









#### 人事異動



百田 知力



茶店 优系

[採用] 令和4年4月1日付 検査部 原田 智文 総務部 蒲原 佑香

## 令和3年度販売状況について

#### 用途別生乳販売実績

(単位 数量:t、前年比:%、単価:円/kg)

	用途		1月			2月			3月		第4	4四半期	計	年度計		
	用壓	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価
	域内飲用向け	23,926	101.6		21,431	99.9		23,477	101.8		68,834	101.1		293,163	99.0	
	学校給食向け	3,015	93.6		3,584	92.8		2,777	89.1		9,376	91.9		40,255	103.9	
飲用等向に	域外飲用向け	8,280	100.9	115.115	9,123	97.1	115.230	8,544	94.2	114.456	25,948	97.3	114.930	92,089	103.2	115.110
一方向に	飲用牛乳等向け計	35,220	100.7		34,139	98.3		34,798	98.7		104,157	99.2		425,506	100.4	115.110
	はつ酵乳等向け	6,528	96.0		6,289	97.4		6,950	98.7		19,766	97.4		84,381	97.7	
	飲用等向け合計	41,748	99.9		40,427	98.2		41,748	98.7		123,923	98.9		509,887	99.9	
4-	脱脂粉乳・バター等向け	7,642	102.8		5,522	103.2		10,185	96.3		23,349	100.0		64,254	106.3	
1 元	クリーム等向け	2,263	102.8	78.513	1,890	97.2	78.930	2,589	102.6	78.080	6,742	101.1	78.433	28,446	103.5	
特定学製品向に	チーズ向け	94	99.9			100.4	70.930	95	113.3		284	104.2		1,136	105.0	-
	特定乳製品向け計	9,999	102.8		7,507	101.6		12,869	97.6		30,375	100.3		93,836	105.4	
則	· 売 乳 量 合 計	51,747	100.5	108.042	47,934	98.7	109.545	54,617	98.5	105.885	154,298	99.2	107.745	603,724	100.7	109.582

#### 支払乳代

(単位 金額:千円、単価:円/kg)

-F []	1月	l	2月		3 F.		第4四半	期計	季節別	精算	年度	it
項目	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価
基本乳代①	5,590,850	108.042	5,250,951	109.545	5,783,077	105.885	16,624,879	107.745	-	-	66,157,261	109.582
脂肪分加算金	60,616	1.171	55,125	1.150	54,317	0.995	170,058	1.102	-	-	520,835	0.863
無脂固形分加算金	61,633	1.191	56,774	1.184	58,668	1.074	177,076	1.148	-	-	618,597	1.025
成分加算金計②	122,249	2.362	111,899	2.334	112,985	2.069	347,134	2.250	-	1	1,139,432	1.887
季節別調整率③	92%	-	92%	-	92%	-	-	-	-	-	-	-
季節別調整金	-447,268	-8.643	-420,076	-8.764	-462,646	-8.471	-1,329,990	-8.620	285,017	0.472	0	0.000
調整後乳代④=①×③	5,143,582	99.399	4,830,875	100.781	5,320,431	97.414	15,294,888	99.126	-	-	66,157,260	109.582
販 売 手 数 料	-17,139	-0.331	-16,089	-0.336	-17,688	-0.324	-50,916	-0.330	-	-	-201,890	-0.334
生 乳 検 査 料	-6,210	-0.120	-5,752	-0.120	-6,554	-0.120	-18,516	-0.120	-	-	-72,447	-0.120
送乳経費	-201,315	-3.890	-200,957	-4.192	-208,275	-3.813	-610,547	-3.957	-	-	-2,389,281	-3.958
需要者負担額(運賃補填)	2,765	0.053	2,982	0.062	2,034	0.037	7,781	0.050	-	1	37,793	0.063
CS·冷却費	-54,018	-1.044	-53,205	-1.110	-61,105	-1.119	-168,329	-1.091	-	1	-631,217	-1.046
集 乳 経 費	-119,431	-2.308	-110,261	-2.300	-125,632	-2.300	-355,323	-2.303	-	-	-1,391,304	-2.305
プール費用⑤	-395,349	-7.640	-383,281	-7.996	-417,221	-7.639	-1,195,851	-7.750	-	-	-4,648,346	-7.699
差引乳価②+④+⑤	4,870,482	94.121	4,559,493	95.120	5,016,196	91.844	14,446,171	93.625	-	-	62,648,346	103.770

## 酪農理解醸成り

## 

## 新聞広告を掲出しました

春休み期に処理不可能乳の発生が危惧される中、年末 年始の協力への感謝の気持ちを伝えるとともに、春休み 期の牛乳消費への協力をお願いする新聞広告を制作・掲 出しました。

3月21日(月):西日本新聞、佐賀新聞、長崎新聞、

熊本日日新聞、大分合同新聞、宮崎日日新聞、

南日本新聞にて掲出(朝刊5段広告)

3月26日(土):日本農業新聞(九州・沖縄ブロック版)にて

掲出(朝刊5段広告)



## 「モ~1杯!牛乳飲んでくだ祭」開催!

日頃からの牛乳愛飲と年末年始の消費応援への感謝を 伝え、春休み期の牛乳消費への協力をお願いするため、 3月26日(土)に福岡市天神のライオン広場にてイベン ト「モ~1杯!牛乳飲んでくだ祭」を開催しました。

会場では、九州7県の生産者のご協力のもと、LL牛乳 3,000個やレシピブックの配布、模擬牛「くるみ・クルクル」 による搾乳・哺乳体験、生産者の方々による「愛飲感謝トー クショー」や「酪農クイズ大会」を実施しました。来場 者には楽しみながら九州の酪農や牛乳について触れても らい、「いつも牛乳飲んでいます」、「応援しています」等 の言葉を直接いただきました。









○模擬牛「くるみ・クルクル」による搾乳・哺乳体験の様子

## 6月1日は牛乳の日・6月は牛乳月間です!

九州 Love Milk Clubでは牛乳月間の6月に酪農理解醸成イベント「ハッピーミルクフェスタ 2022」を開 催します。この様子は後日FM福岡の番組でも聴くことができますので、どうぞお楽しみに!

日時	会場	イベント名
令和4年	イオンモール福岡	九州 Love Milk Club presents
6月4日(土)	(福岡県糟屋郡粕屋町大字酒殿字老ノ木192-1)	FM FUKUOKA ハッピーミルクフェスタ 2022

また、上記イベント以外にも、6月の牛乳月間中にインターネットを利用して多くの方が参加できるような 施策を現在計画しております。

これらのキャンペーン情報は本会のホームページ、Facebook、Instagram、Twitterでも随時紹介してい きますので、こちらも是非チェックしてみてください。

#### 、九販連公式サイト⋅SNSはこちら! /

公式サイト https://kyuhanren.com

https://twitter.com/love\_milk\_club Twitter Facebook https://www.facebook.com/kyuhanren

https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/ Instagram

## SNS・WEBを利用した牛乳消費拡大事業の実施報告について

1~3月に実施した取り組みをご紹介します。

#### 1. ミルクde 応援 プレゼントキャンペーン 2022

年始の牛乳消費拡大につなげる施策として、1月7日(金)~2月5日(土)にイオン九州及び系列店246店舗で対象の成分無調整牛乳を購入して応募すると抽選で調理家電が当たるプレゼントキャンペーンを実施しました。昨年度も同様のキャンペーンを実施しましたが、今回の応募総数は前年比約70%以上の増加となりました。



#### 2. 牛乳フェス in 九州

春休み期を含む不需要期の牛乳消費を促す施策として、2月13日(日)~3月31日(木)の間に九州CGCの加盟店舗約400店舗にて対象の成分無調整牛乳を購入して応募していただいた方の中から抽選で賞品が当たるプレゼントキャンペーンを実施しました。初めての取り組みとなりましたが、実施期間中で187件の応募がありました。



#### 3. ホットプレートで九州うまか飯キャンペーン

牛乳・乳製品料理を促進する施策として、1月15日(土)~2月20日(日)に牛乳・乳製品をたっぷり使ったホットプレート料理3品を特設ページで紹介し、そのレシピを参考に料理写真を投稿していただいた方の中から40名に賞品が当たるプレゼントキャンペーンを実施しました。九州のご当地料理を牛乳や乳製品でアレンジした料理など楽しい投稿が398件寄せられました。





## 乳和食普及活動「チャレンジ乳和食」

昨年に続き "コロナ禍でも自宅・少人数で乳和食料理を学べる実践講座"「チャレンジ乳和食」を企画し、熊本県と鹿児島県の食生活改善推進員協議会の会員計326名の参加を得て実施しました。チャレンジ内容は、5日分のまとめ買い食材で基本となるホエイ・カッテージチーズづくりのほか15種類の乳和食レシピを作り進めると、減塩で栄養豊富で美味しい乳和食料理が自然と習慣化されるというものです。実施レポートでは「栄養豊富な牛乳を和食の出汁として料理で使うと減塩で美味しく仕上がる。目からうろこでした。」、「家族の健康のために乳和食を取り入れたい」などのコメントが寄せられました。





## 乳牛の 暑熱対策を始めましょう!

#### 気温の傾向



● 気象庁によると、今年の夏は全国的に暖かい空気に覆われやすく、気温は北日本から西 日本で平年より高い予想です。梅雨明け後も、西日本では平年と同様に晴れる日が多く なります。今年は猛暑が続くおそれがあると予想されており、乳牛への暑熱対策がより 一層重要となります。

#### 牛の影響





▶ 乳牛は22℃以上(環境温度4~24℃)になると暑熱ストレスを受け、乳量の減少、乳質 の悪化、増体・繁殖成績の低下、日射病・熱射病等を起こしやすくなります。また、泌乳量 の多い牛ほど暑さの影響を受けやすいため、十分に注意が必要になります。

暑熱対策については以下のとおり、畜舎環境と飼養管理に大別され、これらを組み 合わせることが効果的です。早めの対策を行い、熱い夏を乗り切りましょう!!

## 畜舎環境

- 牛舎の窓・戸を開放して舎内の換気
- すだれ・寒冷紗などを利用して、舎内に入る直射日光を遮る
- ◆牛舎内に断熱資材を施したり、屋根に散水・石灰を塗布するなど牛舎からの 輻射熱を抑える
- 扇風機・換気扇、ダクトファンを利用して風を牛体に当てたり、トンネル換気や、 リレー式換気を設置して舎内の温度や湿度の上昇の抑制
- ●噴霧に送風機と併用して牛体を冷却
- ◆牛床には清潔な敷料を敷いて、牛の快適性を保つ
- 飲水設備の改善等をおこない、新鮮な冷水を十分に給水
- 牛舎環境の緑化による温度上昇の抑制



### 飼料管理

- 飼料給与メニュー 「牛の泌乳状況にあった栄養バランスがとれた飼料給与」
- 発酵熱の抑制 「粗飼料給与割合が多いと咀嚼・反芻が増え、牛の体内温度の上昇」
- ●放熱対策 「牛体の毛刈りや牛体への散水」

